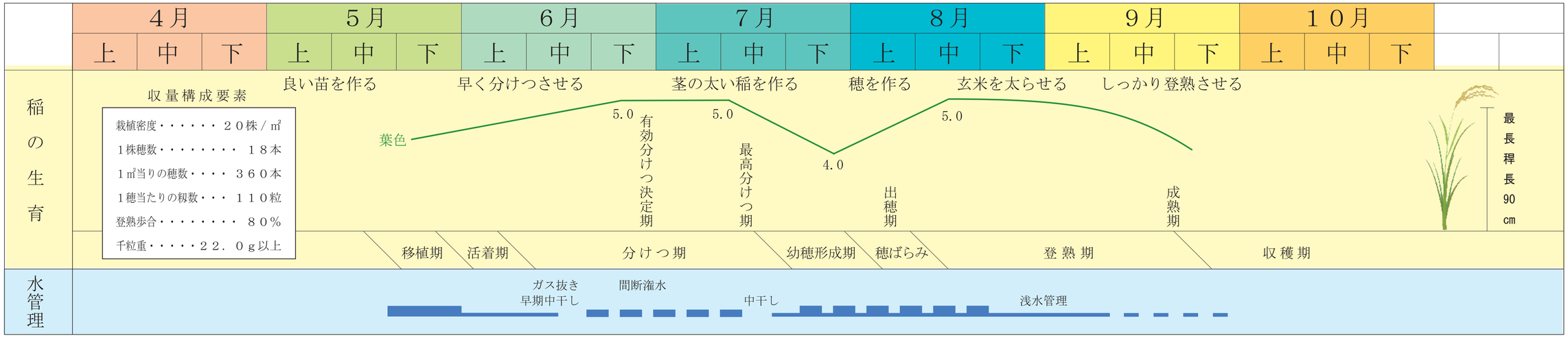
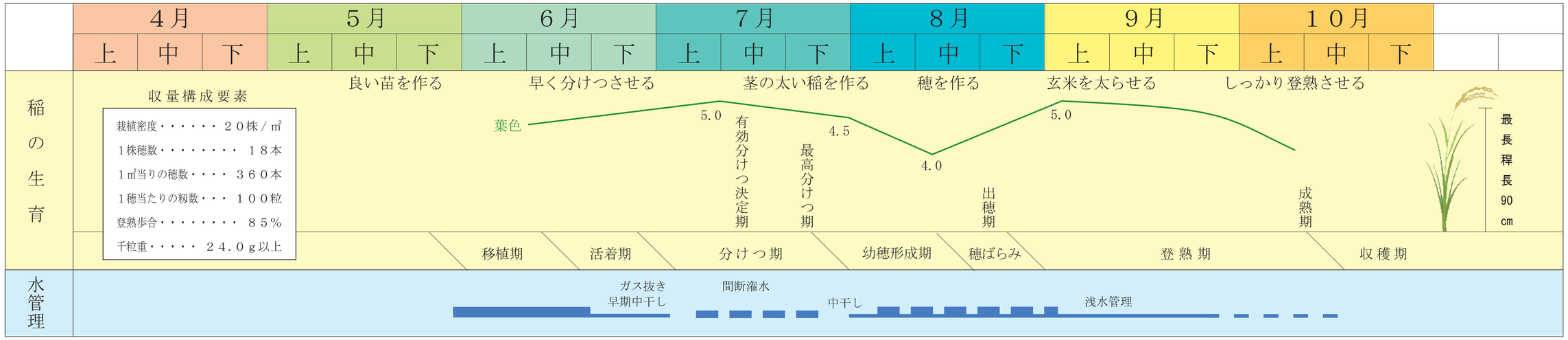
水稲「縁結び」栽培ごよみ（平野地）



水稲「縁結び」栽培ごよみ（中山間地）



栽　培　の　ポ　イ　ン　ト

品種の特性上「種子の休眠状態」が深い傾向にある為
低温下で播種した場合に発芽不揃いが生じる場合がある
種子にはしっかり吸水させ「休眠打破」を行う

＜対策＞
浸水温度を１５℃程度に保つ（低温浸漬は避ける）
浸漬積算温度１２０℃を目安にする
浸漬期間を通常よりも１日余分に行う
浸種時はしっかりと吸水させる

＜推奨肥料体系＞
基肥：５～６kg－N／１０ａ（N全体の６０％）
穂肥：３～４kg－N／１０ａ（N全体の４０％）
合計：８～１０kg－N／１０ａ

一発型を使用する場合は穂肥溶出時期の調整が難しい為
葉色（４．５目安）を確認し追肥の散布も検討する

一発型の肥料は登熟期に窒素成分が切れてしまう恐れが
ある為１２０日タイプ以上を推奨

登熟期に窒素成分が切れると「未熟粒」や「心白粒」の
発生が多くなる

初期分けつがやや弱い傾向にある為
栽植密度６０株／坪　５本植えを目安にする

苗が徒長成長すると初期分けつが出にくくなり
茎数確保が難しくなるので注意する

活着後は浅水管理にして水温を高く保ち初期
生育（分けつ）を促進させる

活着期後半～分けつ期にかけて高温期間が長く
続く場合は早目の間断潅水を行い肥料の溶解を
コントロールする

「いもち病」の耐病性には優れているが
共同防除の観点から基本防除は行う

例年「紋枯れ病」の発生が見られる圃場では
防除を行う必要がある

７月下旬～８月中旬にかけ高温日が続く場合は
水のかけ流しにより稲本体の温度上昇を抑制する
（高温障害の予防対策）

穂長が長く登熟がややバラつく為に早刈りは避け
登熟歩合８５％を目指す